



# 生物多様性のための 農業環境支払い 国際シンポジウム

2019年 3月 5日(火)・6日(水)

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス

富士見坂校舎 F309 教室 定員 80 名

東京都千代田区富士見 2-17-1

交通：J R または地下鉄市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩 10 分

申し込み <https://www.hosei.ac.jp/ices/>

問い合わせ [tetsuji.kurokawa.77@hosei.ac.jp](mailto:tetsuji.kurokawa.77@hosei.ac.jp)

参加費無料

3/5

12:30 開場 **13:00 ~ 17:30** ※英語・日本語：同時通訳有り  
**生物多様性のための農業環境支払いの現状と課題**

E U の農業環境施策の研究を進めるドイツ・キール大学の Uwe Latacz-Lohmann 教授を招き、E U と日本の環境支払いの考え方や現状と課題を検討し、今後の日本での生物多様性のための環境支払いのあるべき姿について議論します。

※ 3月5日の会議終了後、会場近くで懇親会を行います。要申込

3/6

9:00 開場 **9:30 ~ 15:00** ※英語のみ  
**環境直接支払いに関する研究会**

E U と日本で進められている「結果に基づく支払いに関する研究」と「環境直接支払いに関する実証研究」について研究者による発表と討論を行い、今後の日本での生物多様性のための環境支払いへの適用を考えます。

主催：法政大学比較経済研究所 協力：NPO 法人オリザネット

## 開催趣旨

日本で、国による農業環境支払いが2007年に導入されてから、すでに10年以上が経過しました。2015年には「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」が施行され、環境支払いは法律に基づき、実施されています。

この間、予算規模はほぼ一定で、支払水準は実質的に低下しており、環境保全型農業の取り組みの大幅な拡大にはつながっていません。このままでは農業環境施策で先行しているEUに追いつくことが難しいのではないのでしょうか。

私たちは、ここで、あらためて環境支払いを理念から問い直す必要があると考えています。

そこで、1日目はEUの農業環境施策に詳しいドイツ・キール大学のUwe Latacz-Lohmann教授を招き、環境支払いの考え方と実態を検討することで、今後の日本での環境支払いのあるべき姿について議論したいと思います。

2日目は、農業環境支払いに関する研究報告を行います。午前中は新たな手法である「結果に基づく支払い」の現状と可能性について検討し、午後は日本での多様な研究成果を報告します。

なお、本シンポジウムでは特に生物多様性保全の取り組みに焦点を当てたいと思います。2010年の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)は愛知ターゲットを設定し、日本は、戦略目標のひとつとして、「2020年までに、生物多様性の保全を確保した農林水産業が持続的に実施される」(国別目標B2)ことを掲げています。しかし、2018年11月のCOP14に提出した国別報告書では「目標に向けて進捗しているが不十分な速度」との状況が報告されています。今後、農業における生物多様性保全の取り組みの加速化が求められています。このシンポジウムが、一助になれば幸いです。

3/5

13:00～17:30 ※英語・日本語・同時通訳有り

## 生物多様性のための農業環境支払いの現状と課題

### 13:00～15:00 第1部

①環境支払いの原則と哲学 ～EUの共通農業政策における環境支払いの考え方について～

Uwe Latacz-Lohmann (キール大学)

②EUの共通農業政策における生物多様性保全 ～EUでの事例紹介～

西澤栄一郎 (法政大学)

③環境支払いの理念と現実 ～日本の制度の運用上の問題点～

荘林幹太郎 (学習院女子大学)

15:00～15:30 休憩

### 15:30～17:30 第2部

①日本型直接支払いにおける生物多様性保全～交付金の使われ方、使いにくさ～ 古谷愛子 (オリザネット)

②日本の環境支払いの現場の実情と課題Ⅰ～山形県三川町の現場から～ 菅原孝明 (対馬地区環境保全協議会)

③日本の環境支払いの現場の実情と課題Ⅱ～宮城県大崎市の現場から～

佐々木陽悦 (JAみどりの 田尻田んぼの生きものプロジェクト)

④ディスカッション 日本の課題と今後の方向性

※3月5日の会議終了後、会場近くで懇親会を行います。要申込

3/6

9:30～15:00 ※英語のみ

## 環境直接支払いに関する研究会

### 9:30～12:00 結果に基づく支払いに関する研究

①結果に基づく支払いの理論 Uwe Latacz-Lohmann (キール大学)

②EUにおける結果に基づく支払いの実施状況 西澤栄一郎 (法政大学)

③行為支払と結果支払に対する農家の受取意思額：選択実験による比較 黒川哲治 (法政大学)

④環境直接支払いにおける行為支払と結果支払の効率性：オークション実験による比較分析 上松愛実 (滋賀大学)

⑤ディスカッション

### 13:00～15:00 環境直接支払いに関する実証研究

①日本における農業政策の環境への影響評価 佐々木宏樹 (農林水産政策研究所)

②オークションによる水環境保全契約の社会実験：日本での実践と教訓 竹田麻里 (東京大学)

③農地連坦化における公的及びインフォーマルな制度の役割：農業環境政策への示唆 高橋大輔 (拓殖大学)

④ディスカッション